

## 1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- (1) 齒車ハシガラがうまくかみあわない。
- (2) つくえの上を整ととのえる。
- (3) 歩道橋フドウキョウをわたる。
- (4) 新緑シンリキョクの季節キセツになる。
- (5) こまっている人をタタスける。
- (6) ボールを使ってアソアソぶ。
- (7) 家の近くにジンジャジンジャがある。
- (8) なやみごとをソウダンソウダンする。

## 2

次の(1)～(4)の文には一つずつ漢字のまちがひがあります。それぞれ(れい)にならって、①まちがっている漢字一字を文中から書きぬいて答え、②同じ読み方の正しい漢字一字を書いて答えなさい。

(れい) 大声で「はい。」と行いった。▽答え ① 行 ② 言

- (1) 来月、近所に新しくコンビニが開点するらしい。
- (2) 電車の方が着くのは速いが、自動車自動車で旅行に行きたい。
- (3) 父は仕事で長時間歩いていたので、休足しゅうそくを取りたいようだ。
- (4) 反対したのは少数だったが、柱目はしらめすべき意見はあった。

## 3

次の(1)～(4)について、——線部と反対の意味のことばになるように、それぞれの□に入る漢字一字を書いて答えなさい。

- (1) この部屋は明あるい。⇓ □ い
- (2) 兄はぼくより力ちからが強つよい。⇓ □ い
- (3) 学校の北きたに山やまがある。⇓ □
- (4) 国語のテストが終はわる。⇓ □ まる

## 4

次の文の□には「は・が・と・を・に・へ」のいずれかが入ります。それぞれふさわしいもの一つずつ選えらび、書いて答えなさい。(同じものは二度選えらべません。)

・妹は昨日きのうの午前中□(1)図書館としょかんに行ったが、昨日は図書館  
 □(2)休みだったので、本□(3)借かりられずに帰かえってきた。  
 ・明日□(4)お父さん□(5)お母さんが二人で美術館びじゅつかん□(6)行いくので、ぼくと弟はおじいちゃんの家であそぶつもりだ。

**5** 次の(1)～(4)の文の  に入るふさわしいことばを、あとから一つずつ選えらび、記号で答えなさい。

- (1)  ここでさわぐのはやめてください。
- (2)  このチームが負けることはないだろう。
- (3)  成功せいこうしそうにないのに、かれはあきらめない。
- (4)  けががひどくなっても、この試合しあいに出たい。

- ア さぞ                    イ どうか  
ウ ちつとも            エ なぜ  
オ たとえ                カ おそらく

**6** (れい) にならって、次の(1)～(4)の文の「」の中のことばを、それぞれでいいない言いい方に直して、書いて答えなさい。ただし、「」は書かないこと。

(れい) 外を「見る」。▽答え 見ます

- (1) 一時間目のじゅぎょうは「算数だ」。
- (2) あなたはもう宿題を「やったか」。
- (3) 明日は雨が「ふるだろう」。
- (4) その問題はむずかしくて「とけなかった」。

## 7

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《「ぼく」は、同級生の山下くんといっしょに市営プールに来て  
ています。》

大型連休で、プールはかなり混んでいた。

山下くんとここへ来るのは、去年の夏休み以来だ。たしか八月三十日に、<sup>①</sup>ぼくははじめて五十メートルを泳ぎ切って、山下くんをおどろかせた。山下くんも約二十メートル。自己記録を更新した。

あのころとは比べものにならないほど、ぼくの泳ぎは進歩していた。平泳ぎなら最長三百メートル。クロールだつて、春休み  
にスイミング・スクールの集中コースに通ったおかげで、五十メ  
ートルは泳げるようになった。

「<sup>②</sup>おまえ、また\*ハリポタやるのか?」

「え?」

「前に着ていたよな、ハリポタのTシャツ」

「<sup>③</sup>そう言われ、まばたきを何度かしているうちに、思い出した。

ここでいっしょに泳いだ日、ぼくはハリー・ポッターのTシャ  
ツを着ていた。そのことと五十メートルを泳げたこととは関係な  
かったのに、山下くんは勝手に、あのTシャツに魔法の力、みた  
いに想像したらしい。

\*オボレンジャーだったぼくが、いきなり泳げるようになった  
のだから、<sup>④</sup>変な想像をするのも、わからなくはなかった。でも、  
五十メートルでハリポタなんて……。

きょう三百メートルも泳いだら、ハリーが入学した魔法学校の  
えらい人、ダンブルドア校長先生になるとか?

笑いかけたところで、はっとした。ぼくを見ていた山下くんの  
目が、すぐく真剣そうだったからだ。ぼくにライバル心をもって  
いるみたいに。

「<sup>⑤</sup>そういうえば、思い当たることがあった。去年ぼくを市営プー  
ルにさそったのは、山下くんのほうだった。そして、泳げるよう  
になった理由をしつこくたずねてきた。」

今年の三月の校内マラソン大会のときも、目標タイムなどを  
真剣な顔で聞いてきた。そしてぼくにぬかれたことを、かなり悔  
しがっている様子だった。

「そうだ。つい最近だつて、席がとなりになった超まじめな田  
中結花さんに、勉強のことで質問していることがあった。」

山下くんも、向上心をもつようになったのかな。だとしたら、  
それはそれで、いいことだと思う。——ちよつと上から目線かな。  
「ハリポタは着てないけど、前より少し泳げるようになった。」

山下くんは?

「おれも、まあ、二十五メートルくらいまでは行ける。たぶん」  
二十五メートルはもう大丈夫だつてことだろう。」

「<sup>⑥</sup>じゃあ向こうまで、競争してみようか?」  
ぼくはプールの反対側を指した。そこまでなら、いっしょに泳  
げるだろう。山下くんのプライドを傷つけないですむ。

水に入り、1コースと2コースに分かれた。前のほうが空くの  
を待って、

「よいい、ドンー」とぼくは言った。

コースロープをはさみ、二人ならんでカエルのように、手と足をかいた。ぼくはゆっくりめに泳ぎ、山下くんの様子を横目で確認した。

⑦ すぐに「おおっ」と心の中で声をあげた。なんだ、この泳ぎは？

まるで短距離の競泳選手みたいに、すごい勢いで手足を動かしている。去年よりだいたい筋肉がついたようだ。その割には、スピードがともなっていない。ぼくが七十パーセントくらいの力で泳げば、ほとんど差は開かない。

よし、このまま競い合う感じでいこう。同時に\*フィニッシュするように。

山下くんは、十メートルを過ぎ、十五メートルを過ぎても、スピードが落ちなかった。ぼくは、五メートルごとに色が変わるコースロープで距離を測りながら、横にならんでついていく。

二十メートルにさしかかったところで、山下くんの勢いがおとろえた。手と足のバランスが悪くなり、おしりの位置が下がってきた。まずい。おぼれかけている。

ガンバ、山下くん！

そう思った拍子に、山下くんがカエルに見えた。というか、平泳ぎをするぼくたちが、二人ともカエルになったようなイメージが頭にうかんだ。

笑いそうになり、反射的にガブッと水を飲んでしまった。

45

はずみで、右足の指がプールの底に――。失格だ！

山下くんは、半分おぼれながら、二十五メートルに手がどいた。

……シヨックはなかったか、といえは、なくはなかった。わざと負けてあげたわけではない。同着になろうと思っていたのに、失敗したのだから。

家に帰ってからも、しばらく気持ちが晴れなかった。

油断があったのかもしれない。水泳ではもう、ぼくのほうがずっと上だ。そう思って、余裕をもちすぎたのだろう。

それに比べて、山下くんはりっぱだった。必死になってがんばったのだから。みつともなくても、最後まで力を出し切った。そこは見習わなくてはならない。

〈本田有明「願いがかなうふしぎな日記 夢に羽ばたく夏休み」より〉

(注) ハリポタⅡここでは、ハリー・ポッターの映画のこと。

ハリー・ポッターは、魔法学校に通う男の子。

オボレンジャーⅡここでは、泳げない人のこと。

フィニッシュするⅡゴールにつく。

(1) 線①「ぼくははじめて五十メートルを泳ぎ切って」とあります。

りますが、今の「ぼく」はどのくらい泳げますか。それが書かれた一続きの二文を本文中からさがし、その最初の一文の初めの五字を書きぬいて答えなさい。

(2) 線②「おまえ、またハリポタやるのか？」とありますが、山下くんはこのときどんな言い方をしたと考えられますか。次

80

75

70

からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア まじめに聞いたですような言い方。

イ ふざけて笑わせるような言い方。

ウ おこつて問いつめるような言い方。

エ 冷静にかくにんするような言い方。

- (3) 線③ 「そう言われ、まばたきを何度かしている」とありますが、このときの「ぼく」の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 必死にごまかすための言いわけを考えている。

イ 何のことかわからずびっくりしている。

ウ いきなり文句を言われてはらを立てている。

エ 何と言われたかわからず聞き返そうとしている。

- (4) 線④ 「変な想像をする」とありますが、「変な想像」の内容を説明した次の文の□に入るふさわしいことばを、「まほう」ということばを必ず用いて、二十五字をこえないように(、も字数に数えます)書いて答えなさい。

〈山下くんは、「ぼく」が五十メートルをいきなり泳げるようになったのは□からだと思像している。〉

- (5) 線⑤ 「そういえば、思い当たることがあった」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

① 「思い当たること」とは、どういうことについての「思い当たること」ですか。それを説明した次の文の□に入るふさわしいことばを、本文中から十四字で書きぬいて答えなさい。

〈山下くんが□ことについて。〉

② 「ぼく」はこのあと、最近の山下くんの様子を思い出して、

いくつの出来事を挙げていますか。数字で書いて答えなさい。

- (6) 線⑥ 「じゃあ向こうまで、競争してみようか？」とありますが、このように提案をした「ぼく」について説明した次の文の□に入るふさわしいことばを、それぞれ本文中から、①は四字、②は八字で書きぬいて答えなさい。

〈山下くんの①を傷つけないように、②くらいの距離の競争を提案している。〉

- (7) 線⑦ 「すぐに『おおっ』と心の中で声をあげた。なんだ、この泳ぎは？」とありますが、山下くんの泳ぎを見た「ぼく」の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今までに見たことがないような新しい泳ぎ方で、このままでは負けてしまうのではないかとあせっている。

イ 手足をばたつかせているだけで力まかせになっているので、

あとで正しい泳ぎ方を教えてあげようと思っている。

ウ はじめから全力で泳いでいるので、フィニッシュするまで

もたないのではないかと心配している。

エ 勢いがあったて力強さは感じられるが、スピードは出ていないのでこのままならんで泳ごうと思っている。

- (8) 本文中の「ぼく」の説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 泳ぎが少しくまくなったからといって、山下くんを見下し

てわざと負けてやろうと考えたことを後悔こうかいしている。

イ みつともない泳ぎ方の山下くんに負けたことで、自分の泳ぎも大したことはなかったのだと気づき落ちこんでいる。

ウ 山下くんのレベルに合わせて泳ごうとして、結果けっか的に全力を出すこともなく負けてしまったことを反省はんせいしている。

エ 山下くんに負けたのはくやしいが、ついに自分とよい勝負をするようになってくれて、うれしくなっている。

(これで問題は終わりです)

